



2025 年 6 月「福島県地球温暖化防止活動推進員の会」（県北地区）活動報告

6 月 7 日福島市内のアオウゼで 7 名が参加して以下の事項について報告がありました。

- ・第 26 回子どもまつり（本宮市）参加報告
- ・新聞紙によるエコバック作成
- ・ふくしま環境フェスタの準備状況

5 月 24 日、本宮市みずいろ公園で開催された、社会福祉法人本宮福祉協議会主催の第 26 回「子どもまつり」におけるブー



6 月 7 日意見交換会の様子

ス出展については、当日、「地球温暖化防止かるた」体験会をメインに、「気候変動による将来の主要なリスク」のパネルの展示のほか、福島県環境共生課が作成したリーフレット「福島県 2050 年カーボンニュートラル」や消費者庁の「食品ロス」冊子の配布などを実施したとの報告がありました。また、「かるた」の体験会では、昨年と異なり「かるた」が風で飛ばされるような



5 月 24 日「子どもまつり」でのかるた体験会の様子

こともなく、子供から大人まで幅広い方が参加し、大変盛況となりました。「かるた」の読み手も地球温暖化防止活動推進員だけではなく、参加者が行う工夫も取り入れることで、さらなる地球温暖化防止の理解促進につながったとの報告がありました。

また、新聞紙によるエコバック作成については、10 月に開催される「ふくしま環境フェスタ 2025」で使用する予定との報告がありました。

IPCC 第 6 次評価報告書ワーキングⅡクロスチャプターペーパー5：山岳地帯

山岳地帯は生物的にも文化的にも多様性に富んだ地域であり、水や食料、エネルギー、鉱物、薬用植物、観光とレクリエーション、美的価値、精神的価値など、山岳地帯やその周辺、裾野に住む人々に対して必要不可欠な財とサービスを提供しています。他方、この地帯は、生態系、景観、文化、居住性など、気候関連の損失のホットスポットともなっています。山岳地帯の人々は適応力があり、機知に富み、自立していますが、こうした非常に脆弱な環境に居住しているため、一部では、気候変動に対する脆弱性が高い厳しい社会経済的状況にあります。

図 1 は、気候変動が山岳地帯の社会生態系に与える影響を示したものです。山岳地帯とその周辺の人々は、山岳地帯が有する生態系からの財やサービスの提供を受け、生計、収入、食料、健康、ウェルビーイングをもたらしています。しかし、集中豪雨などの不規則な降水量の変化や、山林火災の発生しやすい気候条件の増加等の気候変動による影響を直接ないし間接的に受けています。



図1 気候変動と山岳地帯の社会生態系システム
生態系サービスと産物、山岳地帯の人々の生計、直接的な影響と間接的な影響に対処するための適応オプションの例などを示す

気候変動による直接的な影響として、生態系は生息地の条件が変化し、飼料の貯蔵や家畜頭数の減少とともに、再生する能力が低下し、在来種や固有種の生存が脅かされます。また、間接的な影響として、貧困や食糧不足、栄養・健康不安、人口流出、休耕地面積の増加などにより、生産の質と量を減少させます。

こうした影響に対する山岳地帯の適応の選択が図1の下部に示されています。具体的には、災害リスクに備えた水管理（屋上、雨水）と多目的プロジェクトの促進、動植物の在来種の保護と生息地の回復の促進、森林農業の実践の促進、山の産物（野生の食用植物、薬用植物、換金作物、エコツーリズム）の促進が挙げられています。また、これらの実現のため、教育や意識啓発、作物の多様化と作物の転換、生物種の適応と保護の支援、荒れ地の修復なども必要であることが示されています。しかし、これらの適応策が気候リスクの軽減に貢献できるとされる一方で、適応策を実施する速度や規模などが山岳地帯では低いとの報告もあり、研究者間でも見

解が異なっています。

また、図2は山岳地帯における様々な自然や人間のシステムに対する気候変動の影響の検出と帰属を地域ごとに評価したものです。

Detection and attribution of observed impacts of anthropogenic climate change in mountain regions



図2 山岳地域における気候変動の観測された影響の検出と帰属

気候変動に関連する事項として、縦軸は上から水資源、雪氷、地表の生態系、農業と畜産、ツーリズム、移住、健康と生活、災害、コミュニティの変化と文化的価値観について、横軸は山岳地帯のある地域として、アフリカ、アジア、オーストラリア、中央・南アメリカ、北アメリカ、ヨーロッパ、そして全球が示されています。

また、それぞれの項目に3つの四角と数字が示されていますが、左上が「帰属」、右上が「気候変動」、左下が「負の影響」で、それぞれ色が濃くなるほど、その信頼度が高いことを表しています。右下の数値はそれらの評価を行った「文献数」を表しています。なお、左上の四角には黒い点が示されていますが、多いほど「検出」の信頼性が高いことを表しています。斜線の四角は「評価なし」を表しています。

移住、健康と生活、コミュニティの変化や文化的価値観の項目で「評価なし」となっている地域がありますが、全体を通して、全ての気候変動に関連する事項において、中程度以上の信頼性をもって、75～100%の負の影響を受けており、全ての地域において、山岳地帯は気候変動の影響を顕著に受けており、脆弱な状況になっていることが示されています。